

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズボンドEX 市原		
○保護者評価実施期間	令和6年11月20日	～	令和6年12月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日	～	令和6年12月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちの『自立』に向けた「自己肯定感を高めるためには」に目を向け、生きていくうえで欠かせないさまざまな能力を【小さな7つ】【大きな2つ】【魔法の言葉】というキーワードに掲げて、発達支援の5領域(「①健康・生活」「②運動・感覚」「③認知・行動」「④言語・コミュニケーション」「⑤人間関係・社会性」)に当てはめて、支援に当たっている。	「ガイドライン」をよく読み解き、自己肯定感を育むための支援(「小さな7つ」「大きな2つ」「魔法の言葉」)についての内部研修を毎月実施している。	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)として、保護者会の中での研修として取り組んでいく。
2	児童発達支援との多機能型事業所であるため、子供の成長を長く支援できる。	児童発達支援利用時に培った信頼関係や、好みや困りごとなどの情報を引き続き活用して、支援をしている。	学校などの関係機関との情報共有や地域資源の活用等の取り組みを増やし、支援の輪を広げていく。
3	公式InstagramなどのSNSやお便りを活用し、教室でのお子さまの状況をお伝えしている。	文字のみの伝達だけでなく、写真を用いて、ご確認いただけるようにしている。	Instagramやお便りで写真を活用しながら、教室での活動報告をお伝えする環境を整えている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	トイレ等のプライバシーに配慮が必要な場面で、同性による支援が困難なことがある。	女性職員のみや男性職員のみで対応する時間がある。	職員同士で声をかけをし、支援の必要のある児童はタイミングを合わせてトイレに誘導することで同性による支援が出来るように工夫する。
2	児童発達支援との多機能型のため、年齢の幅が広く、同年齢での小集団活動が難しい。	児童発達支援との多機能型であるため年齢の幅が広く、成長の度合いに開きがある。	それぞれの成長過程に応じて楽しめる活動を工夫し、「できた」「見つけた」「一緒に」「楽しい」と満足感を育めるように支援する。
3			